

第44回日本白内障学会・第20回日本眼内レンズ屈折手術学会合同会議

学会ホームページ = <http://www.cat-iol2005.jp>
 会期 = 2005年6月17日(金)~19日(日)
 会場 = 国立京都国際会館
 本学会は第31回水晶体研究会・第21回日本眼科看護研究会を併催します。

招待講演「New Insight into Wound Healing in Refractive Surgery」
 Steven E. Wilson (Cleveland Clinic)
 「演題未定」 Joram Piatigorsky (National Eye Institute / NIH)
 特別講演「白内障手術とQuality of Vision」大鹿哲郎(筑波大)
 「演題未定」西郡秀夫(帝京大・薬)
 基調講演「白内障の周術期治療」大橋裕一(愛媛大)

府立医大眼科は、H13年の第55回日本臨床眼科学会、H15年の第26回日本眼科手術学会に引き続いて、来年H17年に第20回日本眼内レンズ屈折手術学会を主催します。今回は第44回日本白内障学会を主催する福井大学医学部眼科学教室とともに合同開催という形をとっています。

本会は「Crossing the Frontier」というキャッチフレーズの中に、2つの学会、2つの大学の境のみならず、医師とコメディカルといった職種の間を越えてより良いQOVを追求するという意味を込めており、会場参加型特別企画、11のシンポジウム、8つの教育セミナーをはじめとした、さまざまな新しい試みを企画しています。学会を象徴するポスターには、日の光を受けて虹色に輝くシャボン玉をあしらった、様々な「知」の集合をイメージしています。白内障と屈折手術に関する最新の知見が得られるのみならず、参加されるすべての方々にとって有意義な学会であるべく、準備を進めています。なお、事前登録(H17年3月下旬予定)していただいた方には4月下旬に抄録集をお送りする予定です。(森和彦)

CROSSING THE FRONTIER

会期 = 2005年6月17日(金)~19日(日)
 会場 = 国立京都国際会館

協賛
 第20回日本眼内レンズ屈折手術学会
 第44回日本白内障学会
 第31回水晶体研究会
 第21回日本眼科看護研究会

協賛
 福井大学医学部眼科学教室
 京都府立医科大学眼科学教室

http://www.cat-iol2005.jp

第20回日本眼内レンズ屈折手術学会
 第44回日本白内障学会／第31回水晶体研究会

主催
 福井大学医学部眼科学教室・京都府立医科大学眼科学教室
 事務局
 第44回日本白内障学会・第20回日本眼内レンズ屈折手術学会事務局
 (株)ジェイコムコンベンション事業本部内

〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル本館7階
 TEL : 06-6348-1391(代) FAX : 06-6456-4105
 E-Mail : cat-iol2005@jtbcom.co.jp

府立医大眼科と府民の歩み

最近、病気に関する知識はテレビや新聞、インターネットで容易に得ることができます。しかし、氾濫する情報のすべてが必ずしも正しいとは限らず、中には一般の方々に誤解を生じさせる内容も少なくありません。私たち府立医大眼科は、平成13年6月から目の健康をテーマにした「眼科府民講座」を開催しています。府民の皆様へ正しい知識を提供し、目の病気についての理解を深めていただけるような「分かりやすく、質のよい講座」を目指して参りました。テーマにそって目の病気やその治療法について紹介するとともに、最近のトピックスを盛り込みながら常に新しい情報を提供できるように工夫させていただいております。毎回、多くの方々へ足を運んでいただき目の病気に対する関心の高さを実感しております。

平成15年からは学内だけでなく、大学外にも場を拡げ、府立医大眼

科公開講座」として活動しております。2004年10月16日には、からす京都ホテルで「こどもの近視」をテーマに無料の講座を開催する予定です。「近視って遺伝するの？治らないの？」「メガネやコンタクトレンズはいつから始めたらいいの？近視は進行するの？」といった素朴な質問にお答えします。講座の詳細は眼科ホームページ <http://www.ganka.gr.jp> をご覧ください。皆様の参加を心よりお待ちしております。(東原尚代)



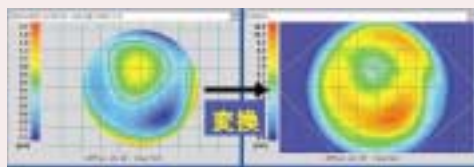
屈折矯正手術の動向

エキシマレーザー近視矯正手術が厚労省に認可されて丸4年がたちました。昨年、本邦では5万件、全世界で300万件のエキシマレーザー屈折矯正手術が行われたと予測されています。このように多くの手術がなされるようになった背景には、マイクロケラトームを使用してフラップを作成することで、術後痛みが少なく、視力回復がはやいLASIK(レーシック)という技術が広まったことがあります。

最近の傾向としては、昨年までに新しいウェーブフロント(Wavefront)技術を使った新世代レーザーがアメリカでは3機種認可され、飛躍的に施行件数を増加させています。ウェーブフロントとは、眼の近視や乱視に加えて不正乱視と呼ばれる従来眼鏡では矯正不可能であった細かい屈折異常まで測定し、それを矯正する技術です。全ての方にとってウェーブフロントでの手術が有効というわけではありませんが、不正乱視の多い目が、手術によってさらに悪くならないようにする技術とはいえるでしょう。

我々は2001年の臨床治験から、このウェーブフロント技術にとりくみはじめ、250眼を越す症例を手術しました。ウェーブフロント技術は未だ発展途上であり、症例選択がキーポイントであることも十分理解しています。最新機種ウェーブフロントを使ったWavefront-guided LASIKでよりよい術後視機能をもたらせるよう診療にあたっています。

(稗田牧)



目のウェーブフロント(左)をはかって、それを無くすような切除プロフィール(右)をコンピュータで計算する。

眼科HP更新のお知らせ

2004年4月1日付けで眼科学教室ホームページをリニューアルしました。木下教授率いる当教室での最先端の研究内容や、眼の治療に対する新たな取り組み等を発信する場として、加えて個々の教室員紹介の役割を担うべく再構築されました。今後更に魅力あるサイトへと充実させていくつもりですので、足繁く訪れて頂きたく思っております。

Click here

初めての患者さんのご紹介やお問い合わせでもお気軽にご連絡ください。

連絡先：京都府立医科大学眼科
 URL : <http://www.opth.kpu-m.ac.jp>
 秘書 津軽麻里または中路紗都子
 TEL : 075-251-5578 (直)
 FAX : 075-251-5663 (直)
 E-Mail : mtsugaru@opth.kpu-m.ac.jp
snakaj@opth.kpu-m.ac.jp

編集後記

年に2回の発刊を目標にしていますEye Treat革命の第4号をお届けします。あっという間にその半年が過ぎてしましますが、それにもまして、眼科診療の進歩が目覚しく、お伝えしたいことで一杯です。今後も、医学的見地から患者側視点への医療のパラダイムシフトを念頭に置きながら、当科の診療システムを構築していきたいと考えていますので、よろしくご支援のほどをお願いいたします。

京都府立医科大学眼科学教室 教授 木下 茂